

平成28年度 学校評価表【自己評価】

三次市立甲奴小学校

経営理念(ミッション・ビジョン)
 自ら夢を持ち、国籍も言葉も違う人々が集う未来社会を、世界的な難題解決に向けて話し合い他者と強調し協働して生きていくことができる力をつける。

＜学校教育目標＞
 すすんで きたえ みがき のびる
 (社会の変化に対応できる心豊かでたくましい子どもの育成)
 ＜めざす学校像＞
 ○すすんで ……………子供の主体性を伸ばす学校
 ○きたえ・みがき……………個々の持ち味を発揮させる学校

＜甲奴中学校区のめざす子ども像＞
 「ふるさと甲奴を誇りに思い、主体的に学ぶ子ども」
 ＜甲奴小のめざす子ども像＞
 ☆自分が好き……夢(目標とする姿)を持ち自ら進んで最後までねばり強くやりぬく子
 ☆友だちが好き……友だちのよさを見つけ、自ら進んで一緒に働き、遊び、学ぶ子
 ☆甲奴が好き……身の回りに目を向け、甲奴のよさを見つけ自ら進んで表現できる子

評価計画				自己評価									学校関係者評価				
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	指標 (効果を見とる目安)	目標 値	7月			12月			結果の分析	改善策	評価	コメント			
					達成値	達成度	評価	達成値	達成度	評価							
確かな学力の育成	基礎・基本の学力を身につけ、主体的に学ぶ児童を育成する。	○確かな学力の定着を図る。	・「すすんで」をキーワードにした全員発言 ・学力フォローアップ週間の設定	学期末テスト(国語・算数)で正答率が到達度得点を超える児童の割合【中川】	80%	78.6%	98%	B	77%	96%	B	1学期の学習内容を復習し学期末テストに取り組んだが、学年によって十分な成果を上げている学年とそうでない学年があった。	学期末に向けて各単元末のまとめを大切にしていくと共に、1月に行われる三次市学力到達度検査を意識した復習に取り組む。	イ	1学期の学力テスト等の達成度をもとに2学期の計画を立てられていてよい。 全体的にはよく発言し意欲的に取り組んでいるが、発言に偏りがあり声も小さいのでさら指導してほしい。		
		・家庭学習徹底取組週間の設定	宿題をやりきる児童の割合【岡田】	80%	95%	119%	A	95%	119%	A	家庭学習取組週間(3点固定)を設けることで、毎日宿題をやることの意識付けを行った。また、提出された宿題に対して肯定的な評価がA評価につながったと考えられる。	今後も適切な評価をできながら、家庭学習の習慣化を図る。					
		・学年に応じた読書目標の設定	読書目標を達成した児童の割合【金本】	80%	70.2%	88%	B	80%	100%	A	児童に読書目標をあまり意識させていなかったことがB評価につながったと考える。	読書ファイルをこまめにチェックしたり、教室の読書環境を整えたりする。					
豊かな心と健やかな体の育成	よりよい人間関係づくり、豊かな心と健康な心身を育成する。	○グローバルマインドを育成する。(強い意志・思いやり・郷土愛)	・他教科等との関連の強化 ・考えさせる道德の時間への質的転換 ・特別支援教育の観点からのアプローチ	アンケートによる児童、教職員の意識調査【高下】	90%→82%	94%	114%	A	92%	112%	A	校内道德教育推進委員会の各部会を中心に取組の具体を示し教職員全員で取組を進めていくことができたことと授業研究を中心に改善点を見つけ取り組んだことがA評価につながったと考える。	今年も自分の関わりで考えることができる道德の時間になるように工夫し、道德の時間を中心に学校教育全体でグローバルマインドの育成に向けて取組を進めていきたい。	イ	グローバルマインドの育成を、特に自我関与に向けた取り組みを通して図っているのが分かる。 他者との関わりにおける規範や思いやり優しさの心も大切にしていきたい。		
		○自ら進んで体力づくりに取り組む子供を育てる。	・水泳記録会、マラソン大会での自己目標の設定	水泳記録会、マラソン大会で自己目標を達成した児童の割合【長手】	70%	88.4%	126%	A	90.5%	129%	A	各学級で目標達成に向けて粘り強く取り組ませたこと、体育科授業においてゲストティーチャーを招いて長距離走の指導をいただいたのがA評価につながったと考える。	来年度の意欲と動機付けのために、記録を電子データとして保存活用できるようにする。また、マラソン大会については、正確な記録の伸びを把握するため距離及び詳細なコース図を獲す。				
		○自ら進んで望ましい生活習慣を身につけようとする子供を育てる。	・レベル5の挨拶の推進 ・無言掃除、無言集合の徹底 ・ふわふわ言葉の常態化 ・給食指導 ・保護者連携 ・生産者連携	学期末の児童アンケートと教職員評価で達成できた児童の割合【山下】	80%	68.0%	85%	B	82.0%	102%	A	児童会の執行部が中心になって、レベルの高い挨拶の視本を示したり、放送で無言そうじ・無言集合を呼びかけることで定着してきた。	日常的にできる者となかなか定着しない者の差が開き、それが固定化しつつある。個別指導と全体指導を並行することでレベルアップを図りたい。			イ	どの部分の取組をさらに強化していくか具体的に明確な改善策を立てて取り組んでほしい。
給食の時、食器や箸の持ち方の決まりやよい姿勢で食べるなどのマナーを守って食べる児童の割合【村上・出口】	7月 50% 12月 70%	57.6%	115%	A	70.5%	100%	A	食器を持つ、よい姿勢で食べることは定着し始めている。箸の持ち方は、指導や声かけをしたときには正しい持ち方に直すが、定着しない。	立腰指導や縦割り班給食での個別指導を行うなどして、児童の意識を高める。また、通信などで児童の様子を家庭へ伝え、家庭でも取り組んでもらうようはたらきかける。								
信頼される学校	地域・保護者と連携し、信頼され、支えられる学級・学校にする。	○国際教育の充実を図る。		アンケートによる児童の満足度【浜井】	90%	88%	98%	B	100%	111%	A	全学年の児童対象となる内容にすることが難しいが、概ね「外国語朝会は楽しかった」「次回が楽しみ」という反応がみられた。	15分の中に、歌(ダンス)、リスニング、クイズ等様々な活動を組み合わせて、英語を発音する場も設けるようにしていく。	イ	グローバルな視点からの特徴ある取組として継続してほしい。		
		○特別支援教育の充実を図る。	・月1回の英語朝会の実施 ・学級目標・個人目標の達成状況を見える化し評価する。 ・スマホ・ケータイ・ネット・通信等の実態調査の実施	保護者アンケート「学校は子どものことについて相談しやすい」の項目の肯定的評価の割合【福原】	85%	97%	113%	A	93%	109%	A	概ね保護者からの信頼が得られていると考えられる。通信やHP、また廊下、教室掲示等で、児童のがんばりや良さを様々な形で発信してきたことも大きいと考える。	引き続き、学校全体で児童相互や教職員から肯定的評価を見える化し、全ての児童が自分の良さを実感できるように取組を行うことで、全保護者の信頼獲得につなげる。			イ	さらに保護者との連携とって目標達成をめざし、より良い学校にしてほしい。
		○「ストップ9」を推進する。		ストップ9を達成した児童・家庭の割合(保護者アンケート)【教頭】	85%	68%	80%	B	73%	86%	B	夏休みを開けての調査であった。休み中の生活の乱れもうかがわれる。学年が上がるほど守られていない家庭が多い。「分からない」という回答もあり、さらに啓発が求められる。	1月にPTA講演会でネットの安全利用等について警察より講話の予定。繰り返し、啓発を続ける。				

(自己評価) 達成度=達成値÷目標値 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【関係者評価】 イ:自己評価は適正である ロ:自己評価は適正でない ハ:分からない